

平成23年2月

# 上田麻奈美 学位論文審査要旨

主 査 井 上 幸 次  
副主査 大 野 耕 策  
同 渡 辺 高 志

## 主論文

Immunohistochemical expression of fibroblast growth factor (FGF) -2 in developing human cerebrum and epilepsy-associated malformations of cortical development (MCDs)  
(ヒト発達期脳とてんかん原性大脳皮質異形成における線維芽細胞成長因子2の免疫組織化学的発現)

(著者：上田麻奈美、杉浦千登勢、大野耕策、柿田明美、堀映、大浜栄作、Viters Harry、  
宮田元)

平成23年 Neuropathology 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はFGF-2陽性を示すBalloon cellの本態を明らかにするために、ヒト発達期剖検脳におけるFGF-2発現の推移と、てんかん患者の外科的切除組織におけるFGF-2-IR%の免疫組織学的定量解析を行ったものである。その結果、各正常脳形成期におけるFGF-2は、matrix cell または一部の神経芽細胞からグリオブラストやアストロサイトに主に発現しており、BCを有するTSC-tuberやFCD with BC群におけるFGF-2陽性細胞率は、BCを有さない群と比較して有意に高い結果となった。本論文の内容は、FGF-2陽性細胞率がMCDsの各組織型、とくにBCの有無と相関していることをより明確にし、発達期脳におけるMCDs各病変の病理機序の生じた時期を反映している可能性を示唆するものであり、てんかん疾患の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。